

市街地再開発事業後の施設と地域の持続性を目指して

— 北九州市八幡東区 KEYAKI TERRACE PROJECT(ケヤキテラスプロジェクト) —

井上龍子 八幡駅前開発株式会社 代表取締役社長

1. はじめに

福岡県の旧八幡市(1963年合併により北九州市)は、1901年官営八幡製鐵所の設置により「鐵都」として広く知られ、戦災復興事業ではJR八幡駅前で先端的都市計画が実施された。しかし社会経済や産業構造の変化により地域は衰退し建物も老朽化したことから、2004年市街地再開発事業による街の再生が行われた。

近年、全国の市街地再開発事業後のビルマネジメント会社や施設の持続性は大きな課題となっている。一方、縮退する地方都市でのコミュニティの脆弱化も言われて久しく、地域を持続的に維持していくための取り組みの必要性が強く認識されるようになってきた。

八幡駅前では、竣工当初から、再開発ビルの管理運営に終始せず、地域に活かされるビルとして地域との連携を図り新たなコミュニティの「場」づくりのため、ビルマネジメント会社が主体となって組織を立ち上げ活動してきた。

2. 産学官民連携の「KEYAKI TERRACE PROJECT」

八幡駅前には戦災復興事業で誕生した幅員50mのケヤキ並木が南北に延びており、再開発ビルはこの通りを挟むように建てられた。「まち」が、木陰でゆっくりと時間を過ごせるテラスのような存在になればとの思いから、活動名称を「KEYAKI TERRACE PROJECT」と名付けた。近隣の大学、企業、JICA、行政から町内会長まで一堂に会し、定期的に忌憚のない意見交換を行なって、周辺の協力施設等と共に様々な取り組みを実施している。

3. 「あるモノさがし」の地域活動

活動の基本として、参加メンバーが「出来ること」「得意なこと」を生かしつつ協働して、地域資源を見直し守り育てる「身の丈に合った継続的な活動」となることを意識している。

直近の活動として以下のようなものがある。

(1)「パレットの樹」

2018年にスタートしたこの企画の趣旨は、たとえば美術館や音楽ホールなど、施設の特性によって限られがちな来訪者を、コラボ企画によって交流させることで、今まで訪れたことのない施設に足を運んだり、新たな視点で各施設の魅力を感じてもらおうというものである。結果として、訪問者の増加や各施設への理解や興味を引き出すことに繋がっている。この2年で企画は13から23へ、参加企業・大学・施設もエリアが拡大し12から16へと増加した。

(2)「八幡珈焙會」(やはたこばいかい)

1906年、製鐵所では急激に増加した従業員への福利厚生として生活用品を販売する「購買會」を創設し、各社宅の至近に設置された。時代と共に一般利用も可能となり名称も変更したが現在も存続している。その為、八幡の人々にとって「こばいかい」という響きは懐かしさと親しみを持つものである。この音をモチーフに「八幡珈焙會」というブランド名の商品(ドリップパックコーヒー)を製作し販売を開始した。パッケージは地元の学生が八幡のアイコンとして選びデザインしたものを基とし、八幡所縁の店舗がブレンドを行なって、高齢者には懐かしさ若者には歴史としてシビックプライドの醸成を図ると共に、対外的には八幡を知って貰うきっかけとなることを目指している。この収益はすべて今後の当会の活動に運用することにしている。

(3)けやきテラス

コロナの感染拡大に拠る閉塞感の中で、誰でも利用できる飲食も可能な開放的空間を提供するため、2016年に当地区で指定された国家戦略特区(道路占用の規制緩和)を利用して、本年7月よりケヤキ並木にテラス席を設置した。

4. 今後の展望

「ハレ」よりも圧倒的に多い人々の「ケ」(日常)が豊かになるよう地域と共に小さな活動を積み重ねていきたい。



音楽ホールで身近な道具を利用した音の実験



「八幡珈焙會」のドリップパックコーヒー



ケヤキ並木と木陰を生かしたテラス席